

■福田蘭童 **青木繁の子に生まれすぐに生別、悪事で世間を騒がせるも、尺八と釣りの天才として、一流人と親交した。**
 ふくだらんどう
日露戦争終・1905＝ 茨城県真壁郡伊讚村川島の木賃宿で、_洋画家の青木繁と、同じく洋画家の福田たねの子に生まれ、画作「海の幸」にちなむように、幸彦と名づけられるが、
韓国反日暴動1907＝ 2歳： 父が、「わだつみのいるこの宮」とともに、わが子「幸彦像」を描いたのち、祖父の葬儀のために故郷の九州に赴いたまま戻らず、それを追って母も家を出てしまったため、押し付けられたたねの両親が、養子つまりたねの弟として入籍、福田幸彦となり、茨城や栃木を転々と、孤独に育つ。

大逆事件判決1911＝ 6歳： 父が放浪の末に九州で病死。
明治天皇没・1912＝ 7歳： 母方の祖父福田豊吉は教師で、栃木県水橋村で私塾を開いており、
第一次大戦始1914＝ **9歳**： 水橋村から三里ほど離れた真岡中学へ通学。_少年時、フナ釣りに始めて、海釣りも覚え、のちには、釣りの名人としても登場することになる。

本格政党内閣1918＝13歳： 東京の学校へ転校するが、_上京して、すぐに同郷の英語教師の家を訪ねた際、床の間にたてかけてあった尺八を無断で触って叱られたことから、本格的に学ぼうと、小泉尺八研究所の門を叩いて、琴古流の基礎訓練を受けた後、琴古流の関口月童に師事、3年ほど、厳格な指導を受けながら猛練習、その結果、右腕が左腕より2寸も長くなったといい、
原敬首相暗殺1921＝16歳： _中学生ですでに、師範格「蘭童」になった。この間、町田椋園からピアノを、高階哲夫からヴァイオリンの手ほどきを受け、月童の死去後、やはり琴古流の水野呂童に師事、
関東大震災・1923＝**18歳**： _独立して一派を起こすと、秘伝扱いされてきた尺八に五線譜を導入したほか、独自の奏法を次々ともものにする天才ぶりを発揮、さらに、中央音楽院で室崎琴月からピアノを、宮内省雅楽部の奥好寛からフルートの吹奏法を学んだりして、尺八の世界では孤立するものの、
 治安維持法・1925＝20歳： この年始まった***ラジオ放送や演奏会で知られ、作曲家としても活動するようになり、**
 金融恐慌・・・1927＝22歳： この年、最初の妻との間に、長男の石橋エータローが誕生するが、子供時代に、父の悪人ぶりが話題になったことから、のちに、ハナ肇とクレージーキャッツメンバーで料理研究家として知られるようになる間、オヤジは死んだことにしていた。この年、_上野の東京府美術館で、朝日新聞主催の{明治大正名作展覧会}が開かれ、青木繁の「海の幸」「わだつみのいるこの宮」が出品されて反響を呼んだ際、「幸彦像」像を持参して、名作展事務局に遺児であることを名乗り出て、すでに音楽界で認められていた福田蘭童が青木繁の子であることが世間に知られることになる。
 共産党事件・1928＝23歳： 久留米に赴いて、父の墓参りをした後、亡父の親友梅津満雄を訪ねて、彼のもとに保管してあった作品全てを見せて貰って、話を聴き、感涙にむせんだ札状まで送っているが、そこには、底意もあったようで、のち、所有権を巡って恩人を告訴することになる。
 海軍軍縮条約1930＝25歳： 白鳥省吾の作詞で、「白河小唄」作曲、
満州事変・・・1931＝26歳：
 五一五事件・1932＝**27歳**： この年から、_女性を誘惑しては金を借りて別れるという手口を繰り返し、
 国際連盟脱退1933＝28歳： 小川花伝の作詞で、「深川音頭」作曲、
 帝人疑獄事件1934＝29歳： ***麻雀賭博で作家や女優らとともに一斉検挙されて、その素行が、新聞各紙に大きく報じられ、結婚詐欺で逮捕され、一時は女蘭堂、学者蘭堂、偽医者蘭堂など、“蘭堂”が結婚詐欺師の代名詞として使われるほどとなった。当初は容疑を否認していたが途中から犯意を認め、懲役10ヶ月の実刑判決が出て入獄、**
 芥川直木賞始1935＝30歳： **刑を終えて出所したが、映画音楽も手がけていて、映画撮影の為にロケ地へ向かう船上で出演女優の川崎弘子を強姦する事件を引き起こし、松竹蒲田撮影所の所長の城戸四郎から責任をとるように迫られ、妻と離婚し川崎と再婚する。実は、川崎とは前年の映画「忘れぬ花」の撮影で知り合っただけに交際に発展し、川崎の母の同意の下に婚約していたとも報道され、弘子との結婚の際には、城戸とともに菊池寛が媒酌人を務めているなど、すでに、志賀直哉はじめ、一流文化人と親交するようになっていて、**
日中戦争始・1937＝32歳： _湯河原で10年ほど隠遁生活を送る間も、時代を黙殺するように、同い年の西園寺公一らと釣り三昧、
日米開戦・・・1941＝**36歳**：
敗戦・・・1945＝40歳： **敗戦後、音楽家としての活動を再開、**
 極東裁判判決・1948＝43歳： 久留米郊外に青木繁の歌碑が建てられた際、遺作の保存に最も功績のあった梅津満雄は招かれなかった。
朝鮮戦争始・1950＝**45歳**：
独立回復・・・1951＝46歳： 「蘭童捕物帳」以降、_随筆を中心に著述活動も始め、
 メア-事件・1952＝47歳： 「新日本膝栗毛・虚無僧道中記」、
 TV放送始・・・1953＝48歳： 「風流點々記」「海千山千」。***日本放送協会のラジオ番組{新諸国物語・笛吹童子}のオープニングテーマと劇中曲を手がけて、テレビ時代の前の子供たちに多大の影響を与えた。**

自衛隊発足・1954＝49歳： 「蘭童風流譚」、
55年体制始・1955＝50歳： 「うわばみ行脚」「ぬらくら夜話」「うわばみの舌先」。映画脚本「あっぱれ腰抜け珍道中」、
 国連加盟・・・1956＝51歳： 「蘭童作家観」「(随筆)いろはにほへど」「蝸牛道中記」、
 美智子妃・・・1959＝**54歳**：
安保闘争・・・1960＝55歳： 「井の外の蛙」、
 タイタイ病始・1961＝56歳： 「おんな風土記」、
 大学紛争始・1965＝60歳： 「この目で見た赤い国の恋」。
 いざなぎ景気1966＝61歳： この年出版された西園寺公一の「釣魚迷」には、戦時下の思い出が綴られている。「蘭童つり自伝」以降、_釣りへの蘊蓄を本にして出版し始めるとともに、料理にも長じていたことから、
 美濃部都知事1967＝62歳： 「世界つり歩き」。湯河原の吉浜に持っていた、手漕ぎの小舟と、40人乗りの機会船で_自らが釣った魚を自ら調理して友人たちに振る舞うために東京渋谷にプライベートサロン{三漁洞}を開いたが、

震ヶ関ビル・1968＝**63歳**：
全共闘・・・1969＝64歳： 釣り仲間でもあった開高健の名著「私の釣魚大全」には、尺八ではなく釣りの天才として登場している。
ドルショック・・・1971＝66歳： 「釣った魚はこうして料理」、
石油ショック1973＝68歳： 「風流釣れ釣れ草」、
 田中角栄逮捕1976＝71歳： **妻の弘子を亡くし、その後を追うように、脳卒中で没した。**
 没後に、釣魚名著シリーズとして「わが釣魚伝」、随筆「志賀先生の台所」が刊行された。{三漁洞}は後に息子の石橋エータローが二代目店主として引き継いで居酒屋とし、エータローが亡くなった後も石橋家によって現在も営業されている。